

（イエスは10人のおとめのたとえを語られた。）そこで、天の国は次のようにたとえられる。 - 中略 - 真夜中に「花婿だ。迎えに出なさい」と叫ぶ声がした。そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。『賢いおとめたちは答えた。分けてあげるほどはありません。それより、店に行き、自分の分を買って来なさい。』愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。」 - マタイ25章 -

## 本当に重要なこと

ルルドの奇跡的治癒を目の当たりにしたアレクシス・カレルという、(後にノーベル生理学・医学賞を受賞(1912年)した)人の言葉です。「知識で神を知ろうとする者に、神は遠ざかり、心に愛を持っている人には、神の方から近づかれる」

神様の前で本当に重要なことは、「いのちを大切にす愛」だけです。ところが、成長とともに親が全てではなくなる子供のように、人は神様が示す重要なことからそれて、知識を求め知識にたよるようになります。

イエスさまのたとえの10人のおとめたちはみんな、天の国の宴に招かれましたが、おろかな5人のおとめはこの世の価値観しか持っていなかったもので、天の国に入ることができなかつたのです。世界は今、本当の幸せではなく、手にはいると、もっともっと欲しくなって依存症になる、「幸せのようなもの」であふれています。その波におぼれた人が、生きがいを失くしてすぐるものを探しているのです。それが、「本当に重要なこと」そして「神」でありますように。世界は私たちの「祈り」を必要としています。Fr.昌川